



なかの ひろふみ

中野 博文

ハンター

「けものみちPROJECT」代表
「猟師の山小屋」代表

応募のきっかけは？

2014年頃、山口県へ帰省した際に俵山でハンター達と出会い、「命をいただく」ということが腑に落ち、ジビエ事業に携わりたいと考えようになりました。そのタイミングで、俵山での協力隊募集があり、迷わずUターンを決めました。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

特にギャップはありませんでした。行政からのミッションを自分なりに解釈し、ハンターという役目を担って地域に入り、地域の役に立つ取り組みを見出しつつ、同時にそれを生業にしてゆく作業の積み重ねでした。

成長したな、と思うことは？

解体技術です。任期中の3年をかけて、師の教えのもと、解体スペシャリストを目指しました。家畜とジビエとでは環境が異なりますが、家畜の処理レベルでのジビエ肉処理を念頭に今も技術の研鑽をしています。

困難な場面に遭遇したとき、どう乗り越えましたか？

いつ解体作業が入るか予定が立てられないのが大変でした。しかし、それが地域との関わりを深めることになりました。常に地域にいないかならないので空いた時間を使い、イベント運営に飲食店勤務、農業従事者へ送迎ドライバー、果ては大工・電気屋・水道屋のアシスタント…どんどん仕事を探し、地域の役に立つことは何でも仕事にしました。おかげで、肩書きの多い人間になりました。

隊員時代：イベント会場



現在、そしてこれからについて

暮らしの軸は、ハンターです。ジビエ事業のみならず、地域の役に立つことでお金が稼げるからこそ、これからのコミュニティには大切なことだと実感しています。現在、住民主体で収益事業を展開する地域経営会社を有志で設立し、ジビエの地産地消のために販路ともなる飲食店の運営にも参加しています。また、地域内で譲渡していただいた空き家を活用し、自宅兼工房「猟師の山小屋」としてセルフリノベーションしており、ここでジビエ革加工の他に、鹿肉を使ったペットフード事業を展開させ、ゆくゆくはハンターがもてなす飲食店を開店し、ハンターの6次産業化までもっていきたいです。



ジビエ革加工

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

人生において、本当の豊かさって何でしょうね？自分のそれを見つけてみてください。

風はもうボクラが住む、地方に向かって吹きはじめています。人生を豊かにしてくれる要素を、人はだんだん地方に見出しています。

これからその勢いは加速しつづけます。

今この冊子を手にとっているあなたが、すでにその風です。

なかの ひろふみ
中野 博文さん

▶ 協力隊として

【着任地】長門市(俵山)

【活動期間】2016年9月～2019年8月

【活動内容】俵山の活性化や交流・定住に関する活動等

▶ 現在の仕事

①ハンター ②「けものみちPROJECT」代表 ③「猟師の山小屋」代表 ④地域経営会社「株SD-WORLD」取締役 ⑤野生獣肉解体処理販売所「俵山猪鹿工房 想」メンバー ⑥「株式会社アグリベンチャー俵山」ドローン操縦・育苗ファーマー ⑦ NPO法人「ゆうゆうグリーン俵山」理事・公共交通空白地有償運送ドライバー ⑧山口県民芸術文化ホールながと「ルネッサながと」評議員



イノシシ箱罠



中野さんのあゆみ

- 2014. ジビエに興味を持ち始める
- 2016.09 協力隊着任
解体処理場で修業開始
- 2016.12 「けものみちプロジェクト」スタート
- 2017.01 「シカやイノシシの命を余すところなく活用しよう」と破棄される皮、骨、牙などでアクセサリを制作・販売
- 2017.09 銃猟免許取得ハンターになる
- 「俵山マーケット」実施
「けものみちプロジェクト」が中心となり、食・文化・アートに関わるグループが集うイベントを実施
- 2018.09 「俵山マーケット」実施
- 2019.08 協力隊卒業
- 2020.04 地域経営会社「株SD-WORLD」設立